

048

防災トランプを活用した、世代を超えて 防災について楽しく話し合う場づくり

取組主体

株式会社ウイングベース/神奈川わかものシンクタンク/ 公立大学法人長岡造形大学

従業員数

9人/126人/120人

想定災害

全般

実施地域

全国

- ・ 独自に開発した防災トランプを活用し、世代を超えて防災を楽しく話し合う場づくりを実施。防災について能動的に考え動くことができる人を増やすため、効果の持続性を高める取組を継続している。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

自助・共助の防災意識の醸成と地域コミュニティの活性化に貢献

- ・ 株式会社ウイングベース、神奈川わかものシンクタンク、公立大学法人長岡造形大学は、行政のみでは限界のある自然災害への対応について、地域住民の内発的な自助・共助の防災意識をはぐむことを目的として「防災トランプ」を開発した。また、同団体は、同ツールを用いて、防災について能動的な語り合い交流ができる場づくりを行っている。
- ・ 「防災トランプ」には、数字やマークの他に、カードに「お題」が書いてある。お題は、地震や噴火等の災害に関するものや、身近な危険など防災に関するものであり、トランプの進行軸に従って話し手（話題提供者）と聞き手（学習者）が入れ替わり、防災に関する自身の体験談や考えを共有していく。
- ・ 遊び方は、「ババ抜き」や「神経衰弱」など、定番のルールを用いる。各ルールのうち、決められたタイミングで、カードに書いてあるお題に沿って話をして、話をしたらボーナスをもらうことができる。（「ババ抜き」のルールであれば、話をした場合はもう一枚追加で引いてもらえる等）
- ・ 東日本大震災での復興支援の経験を踏まえ、いざという時のために能動的に自分で状況を把握し、自分で考え自分で動き、いろいろな人とコミュニケーションをとって協力しあえる人を増やしていかなければいけないと感じたことが、開発のきっかけとなっている。
- ・ 参加者は令和2年10月時点で累計17,453人となっている。遊び方を伝え、参加者の体験を引き出す場づくりの担い手である「プレイリーダー」も、累計362人育成した。
- ・ 同団体は、地域や学校で防災について話し合う場づくりを進めるだけでなく、年末年始に家族や親戚で集まった際にも、楽しく遊びながら防災について経験や考えを話し合う機会をつくってほしいと考えている。



学生×会社員×自治会役員



小学生×地域の大人

世代を超えて「防災トランプ」を楽しむ様子

「防災トランプ」を最大限に活用するための工夫

- ・ 防災意識を向上させる効果の持続性を高めるため、プログラムをその場で完結させるのではなく、実践内容を他者に話したくなるような仕掛けも作っている。例として、同取組の場に参加した子どもが、話した内容を簡単な絵本にまとめて持ち帰ることのできる「ぼうさいえほんばなし」がある。自身で制作した「ぼうさいえほんばなし」を、帰宅後に子どもが自ら家族に向けて伝えることにより、家庭内の防災意識の向上に寄与している。



「ぼうさいえほんばなし」で話した内容を記録して持ち帰り、子どもから家庭で防災の話が始まる

国土強靱化

- 防災トランプの制作方法はクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で公開しているため、各地域等でのオリジナル版の制作が行われている。コロナ禍において、オンラインでも楽しめる「防災トランプ WEB 版」も開発した。

企業との連携によって“地域離れ”している働き盛り層を巻き込んだ取組の実践

- 活動が周知されてきた一方で、参加者が比較的「防災意識が高い層」に限定されてしまうことを課題と感じていた同団体は、地域防災を強化するためには、地域離れしている働き盛りの 30～40 代を巻き込む必要があると考え、企業の研修に同内容を組み込み、提供を開始した。
- 防災トランプを活用し、楽しみながら防災について考えることにより、入社年数や部署をこえたフラットな対話の機会にもなると好評を得ており、企業が地域防災に対してどのような貢献ができるかを考えるきっかけにもなっている。美容室を展開する企業での研修では、美容師を対象に防災トランプを実施し、地域防災拠点として機能するための備えや技術習得、コミュニケーション演習の実施につなげた。美容室は全国に約 25 万店舗存在し、顧客の滞在時間が長いことから、いざという時の防災拠点として有効であるという特性もある。防災トランプを用いて共有された取組のアイデアの一部がマニュアル化及び出版され、業界において広く普及啓発がなされている。

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 参加した地域住民同士が同取組を通じて顔見知りになることで、地域コミュニティの形成にも寄与している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 今後は、「自力で避難が困難な方」をどのように巻き込んでいくかが課題となっており、試行錯誤している。個人情報保護の観点により、避難行動要支援者に関する情報は公開されていないことから、いずれの地域においても、この実態を把握することから進めていく必要がある。
- 現状は特別なニーズの実態の事例を収集するところまでとなっているが、今後は、家庭レベル、町内会レベル、自治体レベルで多様なニーズに対応できるような物品の備え、人材の育成に関するプログラムを検討していく考えである。

4 周囲の声

- 中学校においてトランプ遊びは普段禁止されているため、導入にあたっては念入りに準備したが、生徒が楽しそうに話している様子を見て、知識だけでなく、楽しく話すことも改めて大切だと感じた。（中学校教諭）
- 最初は何を話してよいのか探り探りだったけれど、他の参加者の話を聞くうちに忘れていた体験談を次々に思い出して話し合いが盛り上がった。（大学生）
- 普段、ご近所さんとも挨拶より一歩踏み込んだ会話をなかなかしない中で、トランプを楽しみながら地域を舞台に防災の知恵を共有し合えることがとても新鮮だった。（主婦）
- 通常は売上を伸ばすための工夫や行動に関する意見を求められる話し合いが多い中で、災害時に助け合える関係をいかにつくるかを話し合う機会となり有意義だった。（美容師）

担当者の声

- 世代を超えて楽しく話し合う場づくりを通じて形成される「人のつながり」は、きっと大きな力になると考えています。様々な人が交流し、関わるきっかけづくりを可能にする事業モデルとして、これからも取り組んでいければと思います。また、地域の中で企業が地域防災力の強化に果たす役割は大きいと考えています。何か取組を始めたいけど着手できない方がいれば、ぜひ一緒に取り組んでいきたいです。

問合せ先

株式会社ウイングベース 法人番号：1021001039792
TEL：045-550-3487 E-Mail：fukumoto@wingbase.co.jp
神奈川わかものシンクタンク
E-Mail：info@futakoburakuda.org
公立大学法人長岡造形大学 法人番号：9110005015577
TEL：0258-21-3311 FAX：0258-21-3312
E-Mail：rfukumoto@nagaoka-id.ac.jp

サイト URL

